

令和3年度総合情報基盤センター研究開発報告書

令和4年5月30日

研究代表者	氏 名	所 属
	香川 治美	建築都市工学部 住居・インテリア学科
研究分担者		
研究課題	ICTを利用して「授業科目・住居環境入門」の 応用力向上をめざす教材コンテンツ開発	
研究開発期間	令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日	
研究の概要	<p>本研究の目的は、ICTを利用して「授業科目・住居環境入門」の応用力の向上をめざす教材コンテンツを開発することである。</p> <p>本研究代表者は2017年度以降、本研究開発費の助成を2度いただき、WEBサイト教材の開発 (https://housing.kyusan-u.ac.jp) と、それに搭載する住居・インテリアを学ぶ学生のためのICTを利用したデジタル教材コンテンツの開発を推進してきた。また今後の課題として、開発教材を活用した授業を続け、教材コンテンツの利用と改善を継続する必要があることを示してきた。</p> <p>しかしこれまでの成果は、授業用または復習用の教材コンテンツであったため、受講生が、受講期間以外にもWEBサイト教材にアクセスして学びを深める機能をもたせていなかった。応用力は、授業で基礎力を修得した受講後に身につけていくものと考え。本研究が開発するWEBサイト教材は、今後の開発次第では、卒業後もログインし、教材コンテンツの利用だけでなく過去の自分の提出物の閲覧や再提出もできる。</p> <p>研究開発の方法は以下4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本研究が目標とする教材コンテンツを15点作成する。 ② 教材コンテンツをデジタル化してWEBサイト教材 (https://housing.kyusan-u.ac.jp) に搭載する。 ③ 1年後期受講の「授業科目・住居環境入門」の13回目の授業実施後以降に継続して受講生に公開する。 ④ 上記③の受講生の解答、回答、アクセス状況を分析し、学生が学修内容を定着させ、さらに応用して考察できるような用途をもつのか、教材コンテンツの有用性を評価する。 	
研究の成果	<p>本研究では、受講生が学修内容を定着させ、応用して考察できるような用途を、教材に持たせたいと考え、そのために、受講生が在学中に継続して本WEBサイト教材を利用でき、それによって応用力の向上をめざせるような教材コンテンツの開発を行った。</p> <p>得られた成果は下記5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 開発する教材コンテンツの内容を、「住居環境入門」の中の特に福岡市の重要課題である節水に注目し、過去に全国調査された「日常生活の水使用かつ節水行動についてのアンケート調査項目」をもとにした教材コンテンツを15点作成した。 ② 搭載する教材コンテンツとして動画21点も作成した。 ③ ①と②で作成した教材コンテンツをWEBサイト教材に搭載し、受講生は、在学中は継続して、過去の自分の提出物の閲覧や再提出もできるようにした。 ④ 有用性を調査するために、授業期間外のアクセス回数や動画視聴回数も記録できるようにした。 ⑤ 授業期間以降に受講生がアクセスや視聴する回数は受講生1名あたり2～3回程度にとどまったが、1年での「住居環境入門」履修後、2年で受講する「住居設備学」と連携させた教材コンテンツを開発教材を搭載していくことで、応用力の向上をめざせる可能性を確認した。 	

以上

※ 提出締切日：令和4年5月31日（火）（期限厳守）